（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）
神奈川県教育委員会教育長　殿

提出日：令和５年４月７日
学校名：県立秦野支援学校

令和４年度　学校評価報告書（~~目標設定~~・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価（２月 20 日実施）	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、一貫性・系統性のある「秦野らしい」教育課程の整備とそのしくみの確立、及び専門性維持向上のための取組を進める。	①小中高の一貫性・系統性の視点から「秦野らしい」教育課程の整備を行う。 ②個別教育計画を活用した授業づくり・授業改善システムを構築する。	①一貫性・系統性の視点から各部門課程の教育目標や個別教育計画をはじめとする各種指導計画等の組織的見直しを行う。 ②個別教育計画を踏まえた授業評価を行う流れを確立させる。	①校内組織が連携協働し、一貫性・系統性の視点から教育目標や指導計画等の見直しができたか。 ②個別教育計画を活用し、授業を振り返ることで、児童生徒の学習の定着が図れたか。	①それぞれの開設のタイミングで作られた教育目標について、教育部門内を中心に系統性を持てるように、すぐに改善できるところから変更することができた。 ②各部門課程の取組を共有し、課題について話し合う検討会を開催することができた。	①さらに各教育部門で系統性を持たせていくことが課題である。教育部門ごとに小中高の系統性の視点で検討を進め、来年度に向けて変更できるようにしていく。各教育部門における教育課程の系統性も検討していく。 ②検討会で共有した各部門課程の記録用紙等の工夫を参考にして、職員の負担軽減につなげることが課題である。各部門課程でより負担感の少ない方法を検討していく。	①「秦野らしい」という目標に則り「地域と共に」を着実に実践している。地域の皆さんの協力により地域に根差した発信も行われた。 ②個別教育計画において、表計算ソフトを用いて子どもの状態を、教職員が共通して入力して共有するなどの取組が評価できる。	①各教育部門の教育目標を小中高の系統性の視点で見直し来年度より変更していく。教育課程においては、教科等を合わせた指導や日課表上の呼称を揃えるなど、整いつつある。年間指導計画は、全体での共有に留まる。 ②各部門課程の実情に合わせて、個別教育計画の目標を意識した授業改善に取り組むことができた。検討会で共有した工夫を参考にして、各々の方法を模索していく必要がある。	①年間指導計画を引き継いでいくために、年度末に年度生ごとに整理し、次の学部における学習で系統性を持てるようにしていく。 ②個別教育計画研修会等を通して、目標設定の工夫や、その目標を意識して指導支援する場面を適切に設定し、授業改善につながりやすくしていく工夫について伝えられるようにしていく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	児童生徒の個性を尊重し、多様な教育的ニーズに配慮しながら、「自己実現」と「共生」をめざした指導・支援を組織的に行う。	①児童生徒の多様な教育的ニーズに対し、客観性・根拠や多角的視点に基づいた指導支援を行う。 ②人材活用と学び合いを進め、専門性の維持向上を図る。	①アセスメントツール等の活用や専門職等との連携を促進し、的確な実態把握に基づいた目標設定や日々の指導を行う。 ②人材バンクの作成等、校内の人材を活用した教員間の学び合いのしくみを整備する。	①客観的かつ多様な視点での実態把握に基づいた指導目標や手だてを、目標設定や日々の指導に活かせたか。 ②校内の人材活用を恒常的に行い、よりよい指導につながったか。	①それぞれの部門課程のニーズに合わせて、個別教育計画作成に向けた専門職との連携や、各部門課程の実態に合ったアセスメントツールの活用ができてきている。 ②各部門課程でニーズのある内容について、校内の人材を活用し、夏季休業を活用して効果的な研修ができた。一部の部門課程で、個々の教員の得意なことを共有した。	①校内で各部門課程の取組を共有するなど、専門職との連携やアセスメントツールの活用について理解を深めていく必要がある。係会で議題に取り上げて共有を図っていく。 ②本校にある３つの教育部門の専門性を活かしていく方策を考える必要がある。部門課程内から人材の活用を進めていく。	①多様な教育目標への対応として、専門職の活用を実践している。さらにこれらの取組を地域に拡大していくことも考慮していけると良い。太田ステージなど、アセスメントツールを使っていくことは重要であるので継続した取組を期待したい。 ②学びラボの活用は大切なことであり、学べる素材は至るところにあるが、実際にそれを使ってこそ有効であるので、活用が拡大される取組を検討して欲しい。	①係会等で情報共有しながら、部門課程の児童生徒の実態に応じたアセスメントツールの活用や専門職との連携により、根拠に基づいた個別教育計画作成につながってきている。部門課程によって取組の差がある。 ②各部門課程で職員一人ひとりの得意なことを共有し、校内人材を活用した研修や職場でのコミュニケーション向上につながった。学びラボの活用が進まなかったことが課題である。	①互いの取組やその成果を共有し、それぞれの部門課程で活用しやすいアセスメントツールについて、研修を実施するなどの方法で理解を深めていく。専門職とは、継続的な連携が取れるような仕組みづくりをしていく。 ②校内研究の日を活用してミニ研修を実施するなど、負担感なく効果的に学べる仕組みを作っていく。人材バンクづくりに引き続き取り組み、同僚性を発揮して、気軽に相談し合える職場づくりをしていく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価	総合評価（３月 15 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（２月 20 日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	児童生徒一人ひとりの「夢の実現」や主体的な進路選択に向けて、障害特性や発達段階に応じた指導・支援を、保護者や関係機関との連携の下で進める。	①児童生徒の卒後を見据え、児童生徒が自信や意欲、見通しを持てるような指導・支援を行う。 ②スポーツや文化活動等への取組をとおして、児童生徒の余暇活動の充実を図る。	①キャリア・パスポートや個別教育計画を活用し、本人・保護者の意向に沿った目標設定やフィードバックをしていく。 ②様々なスポーツへの関わりや文化活動等を経験する機会を設ける。	①本人・保護者の意向を聴き取り、意向を踏まえた目標設定やフィードバックを行い、児童生徒の自信や意欲につなげられたか。 ②スポーツや文化活動等に対する児童生徒の興味・関心が高められたか。	①児童生徒の個別教育計画の目標に沿った進路支援を、学部・学年と連携して、行うことができた。 ②年間指導計画の中に、「余暇」の視点で実施する内容に印を付け、計画段階から意識することができた。	①小・中学部での進路指導の学習計画の見直しを図る。高等部との連携を図るため、進路担当と学部、学年との進路指導における課題や情報の共有の改善に取り組む。 ②年間指導計画の振り返りの際に、達成状況について検証する必要がある。年度末までに振り返りの時間を確保し、年間指導計画の「次年度に向けて」欄を活用していく。	①早い段階から本人・保護者と共に考える進路の取組は評価できる。「進路担当者や当該学年の職員」が、ではなく「全ての教員」が共に考えていける状況を継続していって欲しい。 ②余暇活動などで地域の方の協力が得られ、行われている。アフターコロナを見据え次への発展を検討して欲しい。	①各学部課程の実態に応じた進路指導の支援を行えた。Ｅ・Ｇ部門の高等部では、校内・現場実習を、小・中学部では、教員向け進路講話会を、それぞれ連携し実施できた。 ②年度当初に年間指導計画で余暇を意識した内容を確認し、係会の中で各部門課程の取組について情報共有できた。校外での活動に制限があったため、思うように余暇の学習を広げられなかった。	①高等部では、学年や課程の実態に合わせながら、生徒本人・保護者の進路に対するニーズに応えた形で指導・支援していけるように取り組んでいく。小学部・中学部においては、進路にむけて興味や関心が向くように進路指導計画を作成できるとよい。 ②感染対策をしながら校外での活動を増やし、学習の幅を広げられるようにしていく。
４	地域等との協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、支援教育及びインクルーシブ教育を「地域とともに」推進する。	①地域の学校との交流及び共同学習を進め、定着化を図る。 ②病弱教育部門の移行・復学支援システムを機能させ、定着化を図る。	①地域の学校との交流及び共同学習を通常の学習場面として定着させる。 ②システムに即して転出入事務を行うとともに卒後・復学後を見据えた学びの充実を図る。	①交流及び共同学習を指導計画に位置付けることができたか。 ②システムに即して転出入事務を行うとともに卒後・復学後を見据えた学びの充実が図れたか。	①末広小と互いにできる工夫を出し合い、年間でできる交流及び共同学習について検討し実施できた。 ②病棟との連絡会に参加し、進路指導計画の共有を図ることができた。学校と病院双方の役割を確認できた。	①今年度積み重ねられた交流及び共同学習を継続していく手立て、工夫を末広小とともに考えていく必要がある。互いの年間指導計画を共有し位置付けを明確にしていく。 ②保護者面談を実施に向けて、病弱教育部門、病院との連携を進めていく。連絡会を進めていく中で、病院と学校の役割を明確にしていき、移行支援システムの基礎固めをする。	①これまで取り組んできたことが今年度大きく進展し素晴らしいことだと評価したい。「見える化」もあり、地域への発信も推進されてきている。 ②復学支援をシステムとして動いていることが窺える。人が替わろうとも必ず稼働していくシステムとしてさらに有効性を高めていくことを期待する。	①互いに交流及び共同学習の共同ビジョンを確認し、それぞれの学校の職員で理解を促進することにつながった。 ②ＧＬや病弱教育部門と連携しながら、病棟との移行支援カンファレンスへの参加や、進路指導計画の共有、保護者面談の実施等を行うことができた。また「進路指導」における学校と病院との役割について確認することができた。	①次年度の見通しを持てるようにしていく必要があるため、交流スケジュールを新年度に引き継ぎ、確実に実現できるようにする。 ②引き続き、移行支援カンファレンスへの定期的な参加や、ＧＬ、病弱教育部門、病院との連携をしながら生徒本人・保護者が希望する進路への支援を進めていく。
５	学校管理 学校運営	保護者、地域、関係機関等から「信頼される学校」をめざし、児童生徒が安全に安心して過ごせる教育環境を整備する。	①児童生徒のいのちと人権を守り、安全・安心で居心地のよい学校生活を送れるようにする。 ②教員が指導に精力を傾けられるよう業務改善を進め、長時間勤務を是正する。	①「児童生徒への丁寧な関わりのスタンダード」、各種マニュアル・訓練等の継続的な確認と見直しを行う。 ②地域人材との協働、定例会議での業務改善策の検討、職員一人ひとりの業務マネジメント等を進める。	①児童生徒情報の共有やマニュアル・訓練等の見直しにより、事故の未然防止や安心な学校生活につなげられたか。 ②校内全部署、全職員が当事者として業務改善に関わり、長時間勤務が是正できたか。	①感染状況と、児童生徒の学びの保障の視点で、校外行事実施基準の見直しを行ない、前年度よりも校外活動の幅を広げることができた。 ②地域人材の活用について情報共有をしたことで、部門課程を超えて広がる人材活用も見られるようになってきた。	①活動の幅をさらに広げるためには、児童生徒の感染対策の指導等、根気強く行なっていく必要がある。さらに、情勢に合わせて実施基準の見直しを図っていく。 ②地域連携コーディネーターと連携し、児童生徒の学習内容の充実に向けた地域人材の活用を継続・推進していく必要がある。	①ドアの隙間にカバーをする等の些細な事でも対応する姿勢は大切である。想像力を働かせることは重要なことで、こうした姿勢を維持して欲しい。 ②業務改善の取組としてゲストティーチャーの活用は継続して行って欲しい。 ②業務改善は教員に聞かないと進まない。得られた評価を分析し、数値として示すなどして次につなげて欲しい。	①校外行事や校内で実施する行事の在り方について、感染状況を見ながら協議をした上で決定できた。今後、宿泊行事をどのようにしたら実施できるか検討していく必要がある。 ②地域連携コーディネーターも活用し、感染対策をしながら、地域人材を活用した学習活動を展開できた。	①他校の対策等も参考にしながら、校外行事の実施基準を引き続き検討していく。授業参観等保護者が児童生徒の活動の様子を見ることで、安心に繋げられるように、実施について検討する。 ②少しの内容でも、気づいたことを発信し、小さなことからコツコツと業務改善できるようにしていく。職員同士で、業務を効率的に遂行するための個々の工夫について共有していく。